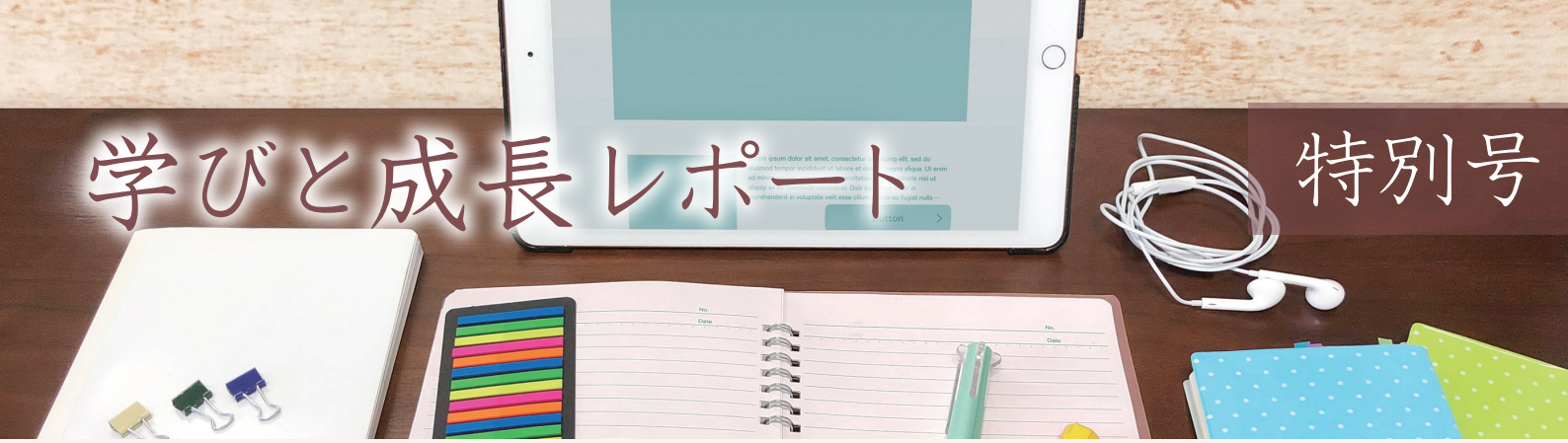


はじめに

立命館大学では、新型コロナウイルス感染拡大により４月に発出された政府の緊急事態宣言を受け、春学期の授業を約１カ月間休講したことに加え、再開後も、ほぼ全ての授業を Web を活用した形態（以下、「Web 授業」と記す）で実施しました。学生の皆さんには突然の Web 授業への転換によりさまざまなご不便やご面倒をおかけしました。この間、大学としては、４月初頭に皆さんの Web 授業の受講環境の調査、５月下旬の授業再開後には学生・教員双方に対する Web 授業に関するアンケート調査を実施し、皆さんの学習環境の整備と Web 授業の充実に資するよう努めてまいりました。今回の「学びと成長レポート」では学期末に実施した授業アンケートと教員に対するアンケートの結果をもとに、春学期の Web 授業を総括し、春学期の Web 授業の到達点と課題について皆さんにお示しするとともに、秋学期の授業再開に向けた方針についてお伝えしたいと思います。

1. 2020 年度春学期の授業アンケートの結果について

まず初めに、春学期に学生の皆さんに回答して頂いた「2020 年度春学期授業アンケート（以下、“2020 春授業アンケート”）」の結果から見ていきます。Web 授業の「総合的満足度」については「満足した」または「ある程度満足した」という肯定的回答の比率が全回答の 72.0%であり、回答者全体としては概ね満足したと感じていることが分かりました（図 1a）。また「Web の活用方法」が適切であったかという問いについても「そう思う」または「ある程度そう思う」という肯定的回答が 69.8% となり、概ね適切に Web が活用された授業が実施されていたことがわかります（図 1b）。

自由回答においても、「YouTube で１回の授業の VOD を簡潔に複数回に分けていたことは非常に評価できる」、「リアルタイムの授業のおかげで、意欲がかきたてられた」、「一度に全ての動画と課題を公開していただいたので、時間がある時に自分のペースで進められるとても良い授業でした」など Web の特性をうまくいかした授業については高い評価があたえられていました。

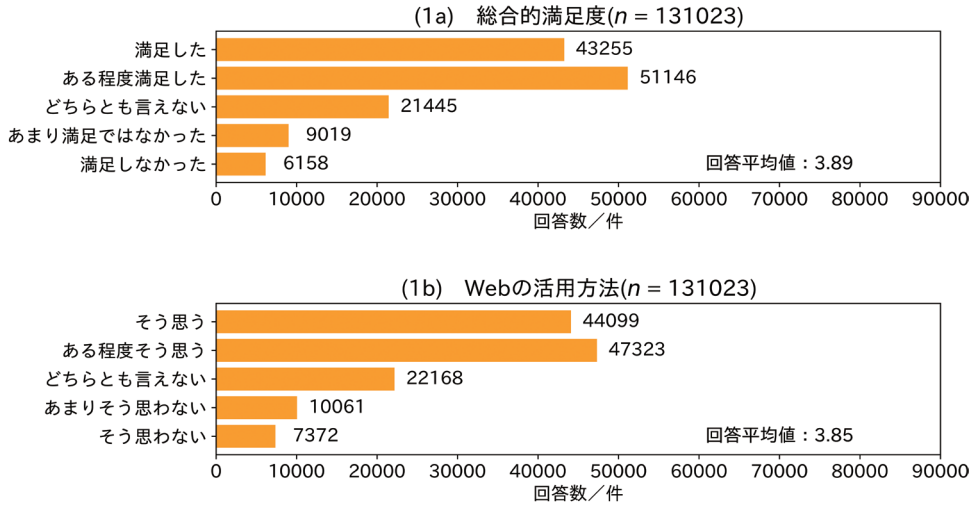


図１　「2020 春授業アンケート」の回答数分布（回答平均値は別表１に示す配点を用いて算出）

「授業内容の分量」（図 2a）や「課題や小テストの分量」（図 2b）については「適切な量であった」という回答が全回答の約 60% を占め、「多かった」および「やや多かった」が 36~37% を占めていました。全体としては回答平均値が 3.5 を下回っており、回答者全体としてはそれほど大きな負担を感じていたわけではないと言えます。ただし、特定の科目においては自由回答に「あまりにも毎回の課題の負担が大きかったです。他の授業でも課題が出ているということを先生はあまり認識されていなかったように思います」、「他教科との兼ね合いを意識せずに課題を出す先生が多く、常にそれぞれの教科における課題が大変であった」といった声が寄せられており、課題が過多となった科目があることも判明しています。

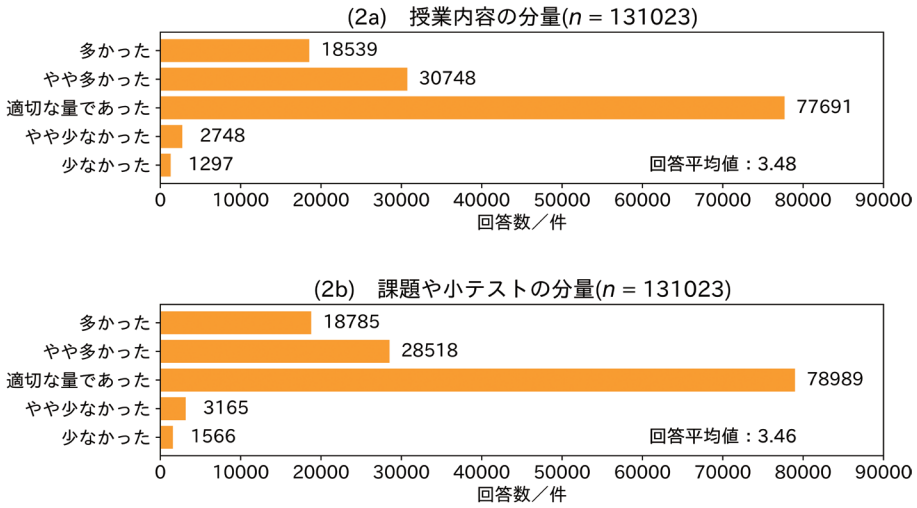


図 2　「2020 春授業アンケート」の回答数分布（回答平均値は別表 1 に示す配点を用いて算出）

他方で、「2020 春授業アンケート」と「2019 年度春学期授業アンケート（以下、“2019 春授業アンケート”）」で共通する設問について比較すると、少し残念な結果となっています。「自主的な学習意欲の促進」、「能動的な学習への取り組み」、「到達目標達成度」、「学びの役立ち度」のいずれにおいても、2020 年度春の回答平均値が 2019 年度の数値を下回り、Web 授業と対面授業とを比較した場合、対面授業の方が評価が高いという結果になっています（図 3）。ただし、授業外学習時間については 2020 年が 2019 年度の数値を上回り、大幅な増となっています。

以上の結果より、学生の評価としては、この春学期に提供された授業には概ね満足してはいるものの、やはり、対面で実施される授業に比べると評価は下がったといえます。ただし、Web 授業もさまざまな形態で実施されました。次では、2020 年度春学期の Web 授業について教員アンケートをもとに実施形態を類型化し、その類型別に授業アンケートの結果を見ていきましょう。

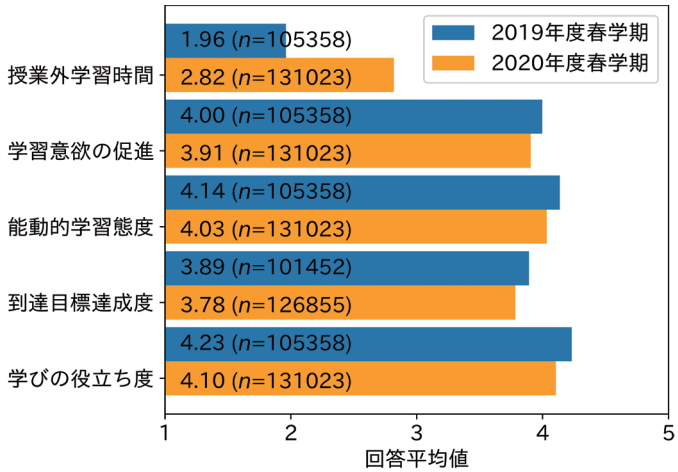


図 3　2020 春授業アンケートと 2019 春授業アンケートの比較

2. web 授業はどのような方式で行われていたのか？

(1) 授業のタイプ

2020 年度春学期の授業が Web を用いてどのように実施されたかを把握するため、授業担当教員を対象にアンケートを実施しました（別表 2 参照）。その結果から、提供された授業はおおよそ表 1 に示す 6 タイプに分けられました。

(2) 授業タイプの内訳

各タイプの授業がどのくらい提供されていたかを見てみます。タイプを特定するためのデータが揃っていた 2702 サンプル[1] を、科目種別（講義系、外国語、小集団の別）に別に集計したものが表 2 です。

表 1　教員アンケートの結果から 2020 年度春学期の授業を 6 つに類型化

①リアルタイム型	④資料・課題提示型（フィードバック（FB）頻度大）
Skype や Zoom などの Web 会議システムを使ったライブ配信によってリアルタイムで授業が行われた。	レジュメや PDF、スライド等の文献・資料と課題が提示され、課題や小テストの結果がフィードバックされた。
② VOD（ビデオ・オン・デマンド）型	⑤課題のみ提示型（フィードバック（FB）頻度大）
撮影された映像やスライド動画（VOD コンテンツ）を学生がいつでも見られる状態で授業が提供された。	VOD コンテンツや文献・資料などはあまり提示されず、主に課題または小テストの提示とそれらのフィードバックによって授業が行われた。
③資料・課題提示型（フィードバック（FB）頻度小）	⑥少課題型
レジュメや PDF、スライド等の文献・資料と課題が提示されたが、小テストはあまり課されず、また課題の結果のフィードバックが少なかった。	VOD コンテンツや文献、資料を一部提供することもあるが、他のタイプと比べて課題提示の頻度が低かった。

表 2　科目種別ごとの授業方式の内訳（表中の数字はサンプル数を表す）

	講義系	外国語	小集団	その他	計
①リアルタイム型	366	284	258	5	913
② VOD 型	239	109	12	0	360
③資料・課題提示型（FB 頻度小）	181	7	26	1	215
④資料・課題提示型（FB 頻度大）	278	196	82	1	557
⑤課題のみ提示型（FB 頻度大）	63	166	10	1	240
⑥少課題型	270	44	102	1	417
計	1397	806	490	9	2702

これを見ると、科目種別に関わらず「①リアルタイム型」が最も多いことが分かります。このタイプは、遠隔授業ではありますが対面授業に最も近く、これまでと同様の方法で授業を実施することができます。それが授業担当者に最も選ばれた理由であると考えられます。

④資料・課題提示型（FB 頻度大）も、科目種別に関わらず多くの授業で選ばれていました。従来から利用されている manaba+R のみを用いて授業を実施できることが多くの教員に選ばれた理由であると考えられます。

1）授業の数ではありません。「教員 - 科目 - キャンパス」の組み合わせを 1 サンプルとしました。例えばある担当教員が衣笠キャンパスで「〇〇入門」という科目を 4 クラス担当している場合も、それを 1 サンプルとして計数しています。

6タイプのうち、3番目に多かったものが「⑥少課題型」でした。このタイプは、①リアルタイム型や②VOD型、③④の「資料・課題提示型」などのタイプとは異なり、課題をあまり課さないことに最大の特徴があります。当然、質疑応答や結果のフィードバックといったフォローアップも他に比べるとあまり行われていません。みなさんの中には「Web授業はどれも課題が多い」と感じられた方もいたのではないでしょうか。成績を正確に評価する上で、課題への取り組みは重要な客観的指標です。特に受講生の顔が見えにくいWeb授業では、対面授業に比べてどうしても課題が多くなる印象があります。その意味で、「⑥少課題型」は他のタイプと比べて少し性質が異なるものであると言えるでしょう。

次に、科目種別（講義系、外国語、小集団の別）による違いを見てみます。講義系では「②VOD型」が多いのが特徴です。一般的に、講義はVOD型との親和性が高いとされています。受講生の皆さんと即時的なやりとりはできませんが、自分の都合の良いときに何度でも繰り返し視聴できることは、VODの大きな利点と言えるでしょう。今回、「②VOD型」であった授業の多くが、メールやmanaba+Rを通した質疑応答、課題や小テストの結果のフィードバックなど、受講生のフォローアップをしっかりと行っていました。

一方、外国語の授業は「②VOD型」も一定数ありましたが、⑤「課題のみ提示型（FB頻度大）」が多かったのが特徴です。このタイプの授業においても、しっかりとメールやmanaba+Rの掲示板等を使ってフォローアップをしたり、結果のフィードバックをしたりしていました。

演習や実習などの小集団の授業は、「①リアルタイム型」が4割近くを占め、それ以外の方式を取った授業はあまりありませんでした。これは人数が少なくライブ配信を実施するハードルが低かったこと、また、実際に体験してもらうことが演習や実習の目的であることなどが関係しているものと考えられます。

3. 授業のタイプによって授業アンケートの結果に違いがあるのか？

これらの6つのタイプの授業の違いが、授業アンケートの結果にはどのように表われていたのでしょうか。「総合的満足度」（図4b）を見ると、最も高い満足度を得ているのは「①リアルタイム型」、その次に「②VOD型」が続きました。最も低い満足度となったのは「③資料・課題提示型（FB頻度小）」、次が「④資料・課題提示型（FB頻度大）」でした。Webの活用方法の適切さ（図4a）についても同様の結果となっていますが、特に「①リアルタイム型」の評価が高く出ています。なお、「授業内容の分量」や「課題や小テストの量」では「⑥少課題型」の数値が若干低く出ていることを除いて大きな違いはありませんでした。

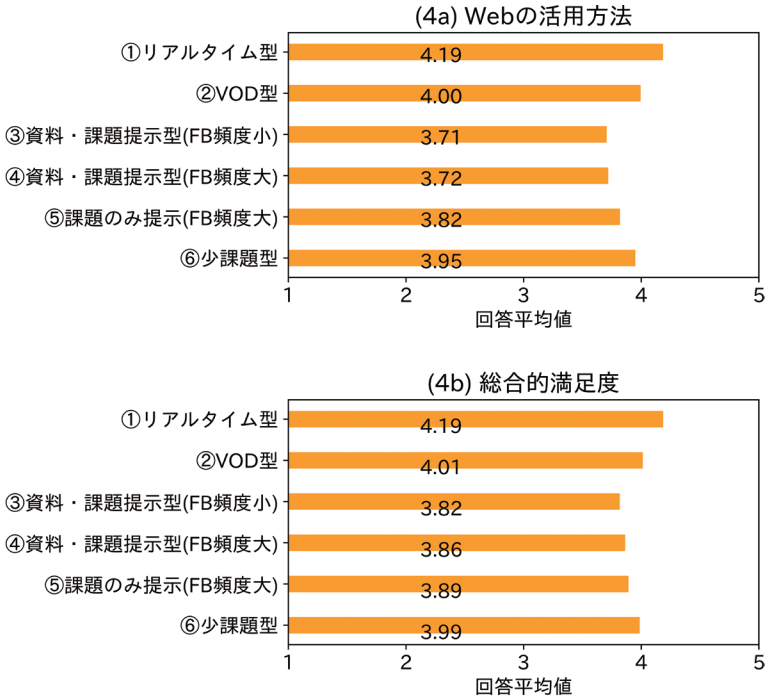


図4　授業アンケートの「Webの活用度」および「総合満足度」の授業のタイプ別比較

※横軸は、各タイプに分類された個々のサンプルの回答平均値を平均した値

※各タイプのサンプル数はそれぞれ、①リアルタイム型：$n = 526$、②VOD型：$n = 231$、③資料・課題提示型（FB頻度小）：$n = 132$、④資料・課題提示型（FB頻度大）：$n = 327$、⑤課題のみ提示型（FB頻度大）：$n = 134$、⑥少課題型：$n = 223$

「①リアルタイム型」の授業については、自由回答においても、「オンラインでも教員を介しての受講生同士の意見交換があってよかった。固定観念が打ち壊される授業だった」、「Zoom を使う授業は理解するためにはとても良かった」、「Skype を用いての解説授業はためになった。また、出された課題に対してのフィードバックを次の授業資料に細かく説明が書かれていたので理解しやすかった」など、リアルタイム型を支持する声が多く出ていました。ただし、受講環境が整っていない場合には「オンライン授業時にカメラ機能を有効にすると回線が落ちやすくなる」や「顔出し」の強制に対する抵抗感なども出ており、今後の授業において教員側が配慮していく必要があります。

また「② VOD 型」では「授業の内容が時系列に沿って進められ、レジュメ・動画の説明は本当にわかりやすかったです」、「オンデマンド形式のため都合のいいときに受講できるので良かった」、「途中からオンデマンドの映像授業になって、理解しやすく楽しく受けられるようになった」などの支持をする声がありました。ただし、「動画じゃなくてレジュメにして欲しかった。動画は見ていて疲れるし、レジュメをもとに動画 1 つ 15 分ほどにして欲しかった」、「授業動画が明らかに長い」という声もあり、単に動画や音声ファイルにするだけではなく、作成上の工夫を求める声もあがっていました。

他方、③④の「資料・課題提示型」の授業に対しては、「レジュメを読んでいて本当に楽しかったです」、「私が受講した動画配信がない授業の中では唯一、教員の話し言葉による細かい説明があり対面授業と等しい価値のある 内容の詰まった授業でした。レジュメを出して一言添えるだけの講義が多い中、この授業はオンラインでも有意義に学ぶことができました」などの工夫された資料やレジュメの質の高さを評価する声がある一方で、「文章を manaba+R に載せるだけでなく、オンデマンドの授業動画も載せて欲しかった」、「Word 資料は非常にわかりやすかったが、コンテンツが Word 資料だけなのは残念だった」、「Zoom などを使ったり動画を載せたりするなどして、直接教員の言葉で講義してもらいたかった」、「正直、コンテンツにテキストと課題が掲示されているだけの講義は寂しく感じた」などの不満や要望が目につきました。特に「③資料・課題提示型（FB 頻度小)」については「資料を manaba+R に掲載するだけで、提出課題に対する採点結果やフィードバックが無かった」、「リアルタイム授業なし、オンデマンド授業なし、資料なし、課題は教科書を読むだけ(手書きのみ)、フィードバックが少なく全く満足のいく講義ではなかった」、「一方的にレジュメが配られるだけで双方向のコミュニケーションがなく失望した」と辛辣な声もあがっていました。大学としては教員にフィードバックすることを求めてきましたが、それがなされていない授業が一定数存在したのは残念なところです。

なお、対面授業との比較についての数値はここでは省略しますが、どの授業類型についても全体数値（図 4）と同様の傾向を示しています。

おわりに

以上、春学期末に実施した「教員向けアンケート」と「授業アンケート（学生が回答)」の分析を通して春学期の授業を振り返ってきました。春学期に実施した Web 授業については、満足度や Web の活用方法の観点からすると一定の評価を得ていますが、しかし対面授業と比較した場合には比較が可能な項目については数値が若干悪化しているということがわかりました。

秋学期については対面授業と Web 授業が並行して実施されます。このアンケート結果を踏まえ、大学としては Web 授業を実施する教員に対して、学生が授業を受講した実感をもてるような授業運営、フィードバックの徹底や課題の量の適正化など「授業運営の留意点」を要請しています。また、多くの教員に、適切な Web の活用方法を習得してもらうべく各種講習会を実施してきましたし、今後も続けてまいります。さらに全ての教室に Web 配信用のカメラを備えたり、新たな動画配信システムを導入したりするなど、Web 授業の環境整備も進めています。

with コロナの時代において、学生・教員の健康と安全を守りながら教育を実現する手段として Web 授業の改善に積極的に取り組んでいきます。また、この Web 授業の経験を奇貨として after コロナの時代を見据えた新たな授業のあり方を構想していきたいと考えています。そのためには学生の皆さんの感想や意見が非常に重要になります。秋学期におきましても授業アンケートをはじめとする各種調査へのご協力を引き続きお願いします。

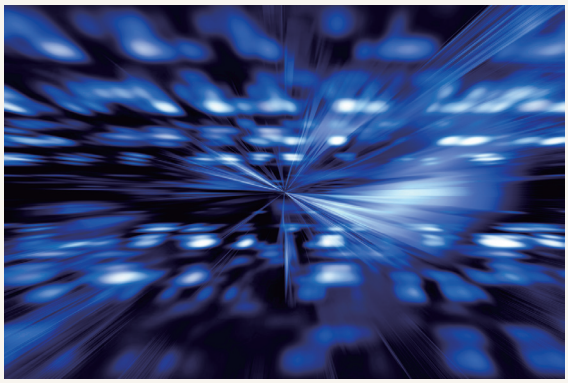
別表 1〈授業アンケート（学生向け）〉

質　問	選択肢と、回答平均値の算出に用いた係数
Q1. シラバス遵守度 受講生の到達目標、授業の概要と方法、成績評価方法はシラバスとコースニュースなどの説明に沿って行われましたか。	5：行われた 4：ある程度行われた 3：どちらともいえない 2：あまり行われなかった 1：行われなかった
Q2. 授業外学習時間 あなたは、予習復習、準備、課題のために、1 回当たり平均してどの程度授業時間外に費やしましたか。	5.000：180 分以上 4.375：150 分以上 180 分未満 3.750：120 分以上 150 分未満 3.125：90 分以上 120 分未満 2.500：60 分以上 90 分未満 1.875：30 分以上 60 分未満 1.250：30 分未満 0.625：しなかった
Q3. 学習意欲の促進 あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか。	5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない
Q4. 能動的学習態度 あなたは、能動的にこの授業に取り組みましたか。	5：取り組んだ 4：ある程度取り組んだ 3：どちらともいえない 2：あまり取り組まなかった 1：取り組まなかった
Q5. 到達目標達成度 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか。	5：達成できた 4：ある程度達成できた 3：どちらともいえない 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった
Q6. 学びの役立ち度 この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。	5：役立った 4：ある程度役立った 3：どちらともいえない 2：あまり役立たなかった 1：役立たなかった
Q7. 授業内容の分量 この授業内容の分量についてどのように感じましたか。	5：多かった 4：やや多かった 3：適切な量であった 2：やや少なかった 1：少なかった
Q8. 課題や小テストの分量 この授業の課題や小テストの分量についてどのように感じましたか。	
Q9. Web の活用方法 この授業の Web の活用方法は適切であったと思いますか。	5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない
Q10. 総合的満足度 総合的にみてこの授業に満足しましたか。	5：満足した 4：ある程度満足した 3：どちらとも言えない 2：あまり満足ではなかった 1：満足しなかった

※ Q1 ～ Q6 は 2019 春学期授業アンケートと 2020 年度春学期授業アンケートで共通の設問です。
※ Q7 ～ Q10 は 2020 年度春学期授業アンケートのみに設定されたものです。

別表 2〈授業のタイプの特定の元となるアンケート（授業担当教員向け）〉

質　問	選択肢と、回答平均値の算出に用いた係数
Q1. リアルタイム（Skype や Zoom 等によるライブ）でオンライン授業を行った。	1：頻繁に行った（80% 以上） 2：かなり行った（60% 以上 80% 未満） 3：半分程度行った（40% 以上 60% 未満） 4：あまり行わなかった（20% 以上 40% 未満） 5：殆ど行わなかった（20% 未満）
Q2. 撮影された映像（Skype や Zoom によるリアルタイムの録画を含む）やスライド（動画）を提供した。	
Q3. 文献や資料を提示した。	
Q4. 課題を示した。	
Q5. 小テストを出した。	
Q6. 受講者間で話し合いやワークをさせた。	
Q7. メールや manaba+R の掲示板等を通じて受講生と質疑応答した。	
Q8. リアルタイムのオンライン（チャットを含む）で受講生と質疑応答した。	
Q9. 課題や小テストの結果をフィードバックした。	



立命館大学
〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1
発行日：2020 年 10 月　　編集・発行：立命館大学 教学部教務課